



IUFRO-J NEWS

No. 4

第2回理事会（カナダ）報告

IUFRO 理事会は、毎年一度場所を変えて開かれることになっているが、1977年は新執行部にかわった初年度にあたるので、昨年2月にナイジェリアで行われた第1回理事会につづいて、10月10～15日にカナダの Brunswick 州 Fredericton で第2回目が開催された。街路樹、庭園樹、河畔林などすべてが美しく紅葉した文字通りクリーンで静かな町で会議が行われた。

会議は議題の確認、出席者の確認、日程の承認、前回理事会記録の承認など型どおりに進められたが、そのなかでわれわれに関連の深いものについて紹介したいと思います。

◎IUFRO 紹介パンフレット

IUFRO をより広く世界中の人々に知ってもらうために、簡単なパンフレットを印刷し、できるだけ多くの国語に訳して配布することとなった。日本語訳は日本が分担する。ここで、IUFRO の性格付けのうち、研究は各国の政治から独立すべき点という点では意見一致したが、表現方法について長時間の議論があった。国際組織のむづかしさといっていいいでしょう。

◎新入会機関

東大林産学科をはじめ10機関が入会承認され、4機関が退会した。

◎新 Research Group の承認

p 5. 03-00 Energy from Forest Biomass.

p 5. 04-00 Production and Utilization of Bamboo and related species.

リーダー：樋口隆昌

◎第8回世界林業会議（インドネシア）

FAO からの要請により、IUFRO から各議題について研究の現状を概説する発表者を推すこととなった。

◎多国語林業術語集について

米国山林局は9,000用語におよぶ英語版の第一次原稿を完成し、フランス語版も完成に近い。ドイツ語版は遅

れている。IUFRO としては1981年までに3国語版を完成し、次いで他の多くの国語に訳して行きたい。とくに望まれる国語として日本語、中国語、ロシア語、ポルトガル語などがあげられた。

◎他の国際機関との協力

IUFRO は FAO とはきわめて密接な関係をたもっているが、今回は、世界自然保護協会、カナダの国際開発研究センター、国連の環境計画、ヨーロッパ協同体の樹木生化学シンポジウム、国際生物学連合 (IUBS)、国際科学連合会議 (ICSU) 等との連携について論議され、それぞれ前向きに検討しつつ対応することとなった。

◎第17回 IUFRO 大会について

松井から日本における準備状況を説明した。会期については、日本における気候や年中行事の関係から、9月下旬～10月上旬が好適であることを説明し了承を得た。正確な日程の決定にあたっては、航空運賃の割引期間等も考慮に入れるよう要望があった。開催場所については、東京、京都、筑波について調査結果を説明したが、京都が好適であろうということになった。以上については日本側としてなるべく早く決定することが望ましい。大会のシンボルテーマについては、IUFRO-J で募集したもののうち主なものについて説明したが、「21世紀への豊かな森林」が評判が良かった。しかしシンボルテーマは大会の性格を左右する大きな問題で、Plochmann (ドイツ)、松井、Carneiro (ブラジル) および Silver-sides (カナダ) の4名で更に検討を重ね次期理事会で決定することとなった。なお、日本大会における研究討議の準備のため、各 Division Coordinators の日本側の対応主査を早急に決めてほしい旨要望があったので、IUFRO-J 委員会で相談する予定にしている。

◎ポスターシステムについて

比較的多人数の集まる国際研究集会の討議を円滑にするため、発表者の要旨をポスターに図示説明したものを

会場に予め掲示しておく方法を IUFRO としても採用しようということで、その要領案が出されていたが、今回は主催が欠席のため決定するに至らなかった。

◎理事会予定

1978—テヘラン (イラン)

1979—スコットランド

1980—ソ連またはブラジル

1981—ウィーン (オーストリア) 日本大会直前 (松井記)

☆☆☆ エキスカーション (EXC.) 視察候補地の調査について ☆☆☆

第17回日本大会の受入準備については、既報のとおり、組織体制の確立が急務とされ、その準備がすすめられ、すでに組織委員会、同事務局が発足し必要な協議が行われている。いっぽう、これらの体制とは関係なく日本大会に関連する業務を進めて差支えないものは、林試、IUFRO-J 等を通じて準備を進めることを申し合せて、とりあえず EXC. に着手することにした。

それには、まず第1に、どこに、どのような視察地があるかどうか、昨年6月に IUFRO-J を通じて候補地の調査を行ったところ、表-1のとおり林業関係で58か所、林産関係で38か所、合計96か所の候補地があげられた。

あわせて事務局においては、オスロ大会のコースを参考にコース設定の基本事項を協議した結果、当面つぎのような事項を基本としてコースを編成してみることにした。

コースの基本となる事項

(1) 専門とコース数

造林 (含育種)	3コース	3
森林保護 (含鳥獣)	1~2コース	3
森林機械	1コース	2
森林土じょう (含林地肥培)	1コース	4
防災	1コース	4

表-1 IUFRO-J を通じ調査した EXC. 候補地

1. 林業コース関係

No	場 所	視察のねらい	専門コース	宿 泊	付近の観光地
1	八甲田	国有林のブナ林経営, サル	経 営	青 森 市	八甲田山, 十和田湖
2	岩手県大東町	アカマツ一関総合試験地	造 林	盛 岡 市	梁駒山, げいひ溪
3	金華山	シカの生態	保 護	仙 台 市	牡鹿半島, 松島
4	青森県大畑町	下北のヒバ, 天然林施業	経 営	青 森 市	むつ湾, 恐山, 尻屋岬
5	八幡平国立公園	ブナ, アオモリトドマツ林の植生, 土壌	上 塚	盛 岡 市	
6	岩手県審試外山分場	北上山系の畜産	経 営	"	岩洞湖, 早坂高原
7	秋田市仁別国民の森	秋田天然スギの林相と二段林施業	"	秋 田 市	男鹿半島
8	小岩井農場	大規模林業経営, 歴史, 風致施業	"	盛 岡 市	八幡平, 田沢湖

林業経営	2コース
林 産	1~2コース
コンgresコース	1コース

(2) コース当りの人員: 40名

(1単位40名若しくは80名・大型バス1台分)

(3) 乗物: 航空機, 新幹線を主体とした列車, バス

(4) 期間: 3泊4日~5泊6日

(5) 時期: 現在9月下旬~10月上旬を予定

(6) その他の条件

視察か所には大型バス乗入れ可能のこと。

候補地は研究成績等の集積のあること。

上記の基本コース案にもとづいて、IUFRO-林試委員を中心として、それぞれの専門コースについて、さきに調査した候補地を参考として、現状でもっともベターと思われるコースを設定したものが表-2のとおりである。

このコースに見られるように、専門、林業一般、観光等それなりに含まれているが、地域別、専門、観光などかなり重複または偏重の面もあるので、この案を第1回のたたき台としてさらに調整しながら、コースの設定をはかる予定であるが、手始めの第1案をお知らせしてご意見、ご批判をいただきたいものと記載した次第である。

No	場 所	視察のねらい	専門コース	宿 泊	付 近 の 観 光 地
9	東北支場	ライシメーター	防 災	盛 岡 市	
10	釜淵理水試験地	理水試験	"		
11	岩手県岩泉町	北上山地風食地, 緑化試験	"		
12	青森市内真部	内真部ヒバ美林と施業経過	経 営	青 森 市	八甲山
13	京都北山, 東山, 嵐山	北山林業, 都市近郊林	一 般	京 都 都	京 都
14	春日山	春日山原始林(暖帯林)	} 経営・造林	} 奈 良	} 奈 良
15	吉 野	吉野林業(古いスギ造林地)			
16	伊勢市	伊勢神宮林, 水源林	一 般	伊 勢 市 他	神宮, 伊勢志摩国立公園
17	向日市	竹林栽培と加工業	"	京 都 市	
18	六甲山	六甲山治山工事	防 災	神 戸 市	六甲山, 再度山, 有馬
19	尾 鷲	吉野, 尾鷲林業	経営・一般	吉野, 鳥羽	伊勢, 真珠養殖
20	木 曾	赤沢国有林(天然ヒノキ)	造林・経営	名 古 屋 他	軽井沢, 上高地
21	小 諸	カラマツ, 食薬性害虫, 先枯病	造林・保護		
22	八ヶ岳, 上諏訪	カラマツ			
23	上高地	亜高山帯の施業	造 林	上 高 地	
24	岐阜, 県林試験地	} 林地肥培	} 土 壌	} 京 都 都	} 九州横断道路
25	大分, "				
26	富士山	富士周辺の天然林, 造林	造林・保護		
27	段戸国有林	スギ, ヒノキ(間伐, 林道天然更新)	造 林	名 古 屋	
28	今須, 岐阜県	今須沢伐林	"		
29	田上砂防地, 滋賀県	防 災	防 災		琵琶湖
30	青森県津軽郡	海岸砂防	"	浅 虫	岩木山
31	王子林木育種場, 栗山, 他	道立林試, 林木育種場, ポプラ, カンバ	一 般	札 幌	支笏, 洞爺国立公園
32	北海道置戸町	置戸照査法試験地	経 営	温 根 湯	大雪山, 知床国立, 網走 国立公園
33	パイロットフォレスト, 標茶試験地	カラマツ一斉造林, 外来樹種導入試験地	造 林	釧路, 阿寒	阿寒国立公園
34	定山溪	定山溪製品事業所, 集約的天然林	経 営	定 山 溪	
35	富良野市, 東大北濱	樹 病	保 護	北ノ峰プリ ンス	} 大雪山国立公園
36	大雪山, 石狩川原流	天然林施業, 大風倒後の施業カラマツ種間交雑育種	造 林		
37	阿寒天然林	天然林施業, 山火事跡			
38	沼田機械	機械化センター	機械・一般		
39	千頭林業	大経木択伐, 搬出	機 械		
40	筑 波	研究学園都市, 林試	一 般		} 関東林木育種場, 県林試
41	奥日光	シカ, 野ソコ	保 護		
42	名古屋諸戸林産	諸戸林産事業地	一 般		
43	富士山周辺	鳥獣の捕食, ヒノキ, シラベ病,	保 護		
44	浅川実験林	サクラ病害, 胴枯病	"		
45	佐 渡	トキ	"		
46	天 竜	天竜林業地	一 般		
47	六日町苗場山	苗場山ブナ林, 天然更新	造 林	湯 沢	上信越高原国立公園
48	千葉の緑化	埋立地跡の緑化	"		房総, 県林試, 東大千葉濱
49	足 尾	足尾, 煙害と緑化治山, 日光	造林・防災		日 光

No	場 所	視察のねらい	専門コース	宿 泊	付 近 の 観 光 地
50	倉敷, 水島	松くい虫, 材線虫	保 護	岡 山	瀬戸内海, 後楽園
51	魚梁瀬	スギ天然林	造 林	高 知	石鎚国立公園
52	阿蘇, 日田スギ	阿蘇原始林, 日田スギ, 九州林木育種場	"	熊本, 阿蘇	阿蘇国立公園, 天草, 長崎
53	低肥スギ	スギ造林地とアカマツ天然林	"	宮 崎	霧島, 桜島, 日南国立公園
54	霧島, えびの高原				
55	山陰, スギヒノキ穿孔虫	ハチカミ	保 護		
56	岐阜, 長野	カモシカ	"		
57	未 定	苗畑病虫害 (ネキリムシ) (薬剤)	"		
58	"	マツカレハ, マイマイガ大発生地	"		

2. 林産コース関係

No	場 所	視察のねらい	専門コース	宿 泊	付 近 の 観 光 地
1	山形県天童市	林産物の二次加工	林 産	山 形 市	蔵王, 山寺
2	秋田県能代市	秋田天然スギ加工の実態	"	秋 田 市	男鹿半島, 八郎潟
3	大 阪	合板工場	"	大 阪 市	
4	東京都	東京新木工団地	"	東 京	
5	名古屋	名古屋木工団地, 貯木場, 木曾五木	"	名 古 屋	
6	桜井市	製材加工	"	奈 良	奈良周辺
7, 8	広 島	防腐, 木工住宅産業	"	広 島	原爆, 宮島
9	京都, 大阪	和風古代建築, (桂, 御所, 二条城)	"	京 都	古 都
10	長 野	木曾林業と木工	"	名 古 屋	林業地
11	高山市	飛弾産業 (木工)	"	有 名 温 泉	大山ライン, 明治村
12	長 野	カラマツ林と加工	"	山 の 家	日本アルプス
13	十和田	天然ブナ林, 青森ヒバ林の加工と利用	"	十 和 田	男鹿, 十和田
14	旭 川	北海道林産試験場	"	旭 川	全 道
15	静岡 (日楽)	高度の木材加工, 木工団地	"	浜 名 湖	浜名湖, 伊豆, 富士
16	砂川 (三井木材)	集成材, 合板, 製材	"	札 幌	全 道
17	富 山	北洋材輸入港湾施設, 北洋材工場	"	"	黒部溪谷
18	新 潟	"	"	新 潟	
19	山形県酒田市	"	"	酒 田	
20	広島 (府中, 福山)	家具工業と楽器製造	"	倉 敷 市	大原美術館
21	吉野, 奈良	スギ, 利用技術, 飛鳥木材, その他国産材加工工場	"	奈 良, 京 都	周 辺
22	奈 良	古代木造建築と仏像	"	奈 良	"
23	石川県輪島市	アラ材工業と漆器製造	"	輪 島	
24	15 に同じ		"		美保の松原
25	姫路市	姫路城の木造建築	"	京 都	
26	茨 城	プレハブ工場 (大和) 学園都市	"	土 浦, 東 京	
27	滋賀 (近江入幡)	" (積水)	"	彦 根, 京 都, 津	彦根城, 京都周辺
28	高知市	梁瀬林業	"	高 知	足摺, 室戸, 高知

No	場 所	視察のねらい	専門コース	宿 泊	付近の観光地
29~33	旭川~留辺しべ、阿寒、苫小牧、静内	道内木材工場	林 産		
34	下関、小倉（段谷産業）	合板、プレハブ、パーティクル工場	〃	福 岡	別府、大宰府、阿蘇、長崎
35	直方市（大和、ミサワ）	合板、プレハブ、パーティクルボード工場	〃	福 岡	別府、太宰府、阿蘇、長崎
36	岡山市（大建）	木質ボード類工場	〃	岡 山	
37	千葉習志野（三井）	〃	〃	東 京	東 京

表-2 IUFRO-EXC. コース 第1回調査結果とりまとめ表

(*-1) 経費概算額は航空運賃、列車実費、バスは1人1日3,000円、宿泊は1泊7,000円として計算、その他の経費は加算されていない。

(*-2) ——上の無印はバス使用。

(1) 造 林-1 (4泊5日・*-1) 経費概算額1人当り・¥ 97,700

航空機^{*}(札幌・札幌泊) (*-2) (栗 山) (美 唄 市) (野幌・札幌泊)
 京 都——北海道支場——王子林木育種場——北海道立林業試験場——北海道林木育種場
 (山部・帯広泊) (標茶・新路泊) 航空機^{*}
 東大北海道演習林——パイロットフォレスト——東 京

(2) 造 林-2 (3泊4日・¥ 79,500)

航空機^{*}(唐津・福岡泊) (日田・小国・阿蘇周辺泊) (熊本・熊本泊) (熊 本) 航空機^{*}
 京 都——虹の松原——日田、小国林業——九州支場——九州林木育種場——東 京

(3) 造 林-3 (3泊4日・¥ 33,000)

(坂下・中津川泊) (赤沢・松本泊) (妙高高原八ヶ岳経由・小諸泊)
 京 都——坂下ヒノキ採種園——木曾、赤沢国有林——関東林木育種場長野支場——東 京

(4) 防 災 (4泊5日・¥ 58,000) 全行程

新幹線バス(田上山・神戸泊) (六甲山) 新幹線バス(東大愛知演習林・名古屋泊) 新幹線バス(白 比)
 京 都——治山工事——治山工事——量 水 試 験——地すべり防止——
 (東京・東京泊) (男体山・中禪寺泊)
 ショッピング——治山工事——東 京

(5) 森林機械-1 (5泊6日・¥ 51,500)

(三瓶谷・志摩泊) (志摩、犬山、木曾福島・木曾福島泊) (長 野)
 京 都——諸 戸 林 産——主として観光——玉滝国有林、上松神宮備林——
 (和田峠、長野原、水上・水上泊) (群馬・日光湯元泊) (日光、筑波・筑波泊)
 カラマツ林と観光——沼田機械化センター——林業試験場——東 京

(6) 森林機械-2 (5泊6日・¥ 56,700)

(三瓶谷・鳥羽市泊) (鳥 羽) (静岡(三ヶ日)・館山寺泊) (兵名湖)
 京 都——諸 戸 林 産——鳥羽市観光——三ヶ日国有林——館山寺観光——
 (大代・東京泊) (日光・湯元泊) (群馬・東京泊) (筑波)
 大代国有林——戦場ヶ原——沼田機械化センター——林業試験場——東 京

(7) 森林土じょう-1 (4泊5日・¥ 94,900)

航空機 (定山溪・定山溪泊) (札幌・札幌泊) (霧雲峡・霧雲峡泊)
 京 都——針広混交林褐色森林土——支場, 札幌市内観光——原生林森林限界——
 (阿寒・弟子屈泊) (網 路) 航空機
 原生林黒色土——製紙工場, 泥炭地——東 京

(8) 森林土じょう-2 (4泊5日・¥ 79,000) ㊦

航空機 (熊本・熊本泊) (阿蘇・湯布院泊) (九重・宮崎泊)
 京 都——スギ挿木造林地——阿蘇火山, 口田, 小園林業——原野造林, 黒色土——
 (駄肥, えびの高原・鹿児島泊) (鹿児島周辺) 航空機
 駄肥スギ, 霧島国立公園——桜島火山, シラス台地——東 京

(9) 森林土じょう-3 (5泊6日・¥ 53,220)

列車 (伊勢・賢島泊) (諸戸山林・名古屋泊) (木曾福島・松本泊)
 京 都——神宮林, 赤色土——諸戸林産事業地——ヒノキ天然林と土塚——
 (志賀高原・志賀高原泊) (白根, 草津, 軽井沢・軽井沢泊) (ハヶ 岳)
 亜高山IBP試験地——白根火山, カラマツ人工林——亜高山帯の伐採と更新——東 京

(10) 森林土じょう-4 (4泊5日・¥ 53,160) ㊦

新幹線・バス (段戸・浜名湖泊) (浜松・苗場泊) 新幹線・バス・列車 (二井, 苗場・猿ヶ京泊)
 京 都——段戸国有林, 褐色森林土——浜名湖周辺観光——肥培試験, プナ天然更新——
 (奥日光・日光泊) (日光・足尾)
 ——亜高山針葉樹林ポドゾル——日光観光, 鉦害跡地土塚——東 京

(11) 森林土じょう-5 (4泊5日・¥ 44,400) ㊦

新幹線・バス (段戸・浜名湖泊) (浜 松) 航空機 (定山溪・札幌泊)
 京 都——段戸国有林——浜名湖周辺観光——針広混交林, 褐色森林土——
 (霧雲峡・霧雲峡泊) (阿寒・弟子屈泊) (網 路) 航空機
 原生林, 風倒跡更新——原生林, 黒色土——製紙工場, 泥炭地——東 京

(12) 経 営-1 (4泊5日・¥ 52,800) ㊦

新幹線・バス (名古屋・名古屋泊) (上 松) (浜松・浜松泊) (浜 松)
 京 都——名古屋木材加工工場——木曾国有林——浜 名 湖——日本楽器見学——
 (龜山村・静岡泊) (富士山・河口湖泊)
 天 竜 林 業——富士御賜林——相模湖——東 京

(13) 経 営-2 (5泊6日・¥ 54,500) ㊦

(佐 井) (高 取) (櫻原泊) (川上村・熊野泊)
 京 都——内陸製材団地——奈良林 試——橈原, 奈良観光——吉野林 業——
 (三重県・宮川村) (伊勢又は志摩泊) (伊勢市) (浜松・浜松湖廻山寺泊) (静岡県龍山町)
 私有林経営——伊 勢, 志 摩——神宮備林経営——浜 名 湖——森林組合の経営
 (水窪町・清水泊) (清 水 市)
 ——国有林経営——清水港臨海製材団地——東 京

(14) 林 産 (木材工業) -1 (5泊6日・¥ 59,700)

(吉野, 軽井・奈良泊) 列車 (伊勢, 志摩・奥羽泊) 列車 (名古屋・名古屋泊)
 京 都——集成材工業——木工機械 (菊川)——西部港 (臨海木材工業)——
 (名古屋・名古屋泊) 新幹線 (浜松・浜松泊) 新幹線
 王子春日井工場——日本楽器——東 京

(15) 林 産 (材質) -2 (5泊6日・¥ 58,800) ㊦

新幹線 (福山, 松本・広島泊) (広島・京都泊) 新幹線 (奈良川上村・奈良泊)
 京 都——コト, 三味線, 松永家具——平和記念公園, マルニ木工 (家具)——吉野林 業

- (15) 奈良市 (奈良市) 新幹線・バス 列車 (松本・松本泊)
 松井(集成材)奈良市内観光——木曾ヒノキ——松本, 民芸家具——東京
- (16) 森林保護-1 (4泊5日・¥ 66,000)
 (津山) (出雲市・松江泊) (岡山, 玉野市) (広島市・広島泊)
 京都——松枯損——スギ, ヒノキ穿孔虫——松枯損激害地——特殊林産物, 木工業
 (山田, 小田・阿蘇泊) (菊池町・熊本泊)
 ——スギ病虫害——スギ虫害試験地, 林木育種場——九州支場 (解散)
- (17) 森林保護-2 (3泊4日・¥ 80,000)
 航空機 (札幌・札幌泊) (有珠・洞爺湖温泉泊)
 京都——北海道大学——みすまい天然林施業試験地外——有珠山噴火後の被害——
 (大 鹿)
 トドマツ枝枯病——支笏湖畔——東京
- (18) 森林保護-3 (4泊5日・¥ 66,000)
 (浜北周辺・郡山寺) (箱根・箱根泊) (富士山) (河口湖・河口湖泊)
 京都——森林病害虫——芦の湖, 箱根遊覧——森林病害虫——河口湖, 青木が原
 (小瀬・野井沢泊)
 ——関東林木育種場長野支場——浅間山観光——東京
- (19) 林業一般-1 (4泊2日・¥ 10,000)
 (京都) (京都, 長岡) (市内見学・京都泊) (奈良)
 京都——北山林業——竹林と加工——古代建築, 仏像——古代建築と仏像, 春日スギ
 法隆寺——京都
- (20) 林業一般-2 (4泊5日・¥ 102,000)
 航空機 (札幌・札幌泊) (野 幌) (栗山・富良野泊) (山部・阿寒泊)
 京都——林試北海道支場——北海道林木育種場——王子林木育種場——東大演習林
 (中標津・羅雲峠泊) (旭川) 航空機
 ——パイロットフォレスト——林産試験場——東京
- (21) 林産一般-3 (3泊4日・¥ 61,700)
 航空機 (別府・別府泊) (熊本・熊本泊) (長崎・長崎泊) 航空機
 京都——日川林業地——小国阿蘇林業地——雲仙天草国立公園——東京
- (22) 林業一般-4 (4泊5日・¥ 63,400)
 航空機 (別府・別府泊) (熊本・熊本泊) (馬島・えびの高原泊)
 京都——日田林業地——小国阿蘇林業地——マツ枯損, アカマツ林
 (宮崎・宮崎泊) 航空機
 照葉樹, 製材工場——東京

INFORMATION

★第2回理事会出席

52. 10. 8～16の9日間, カナダ国フレデリクソン市において開催された第2回理事会に佐藤副会長, 松井理事(8～13日出席)が出席され, 日本大会の開催場所, 会場, 時期と期間, シンボルテーマおよび受入のための

日本側の準備状況等について説明した(第1頁参照)。

★EXC. コースの検討

52. 11. 17. IUFRO-林試では, さきに IUFRO-J を通じて調査した EXC. 候補地等を参考にすでに設定した専門別コースにしたがって, コースとスケジュールの原案を編成することとし, それぞれの専門分野の研究者に依頼し, 年内に第1回の草案を作成することとした(2～5頁参照)。

また Div のカウンターパート、ポスターシステム等について情報交換を行った。

★組織委員会事務局幹事会

52. 12. 9 林野庁において事務局幹事会(林野:普及課・林政課, 林試)を開催し, カナダ理事会の協議結果および日本大会協議会, 協力会の設立のための現状, EXC. の編成と調査, および当面の問題点(募金)等について協議し, 近々事務局会議を開き情報の交換と業務の整理・促進をはかることとした。

★組織委員会事務局会議の開催(第2回)

53. 1. 11 林野庁において事務局会議を開催し, カナダ理事会の報告, EXC. の候補地調査とコースの編成, シンボルテーマの再調査, 協議会, 協力会の設立の現状と問題点等について報告と協議を行った。

(1) カナダ理事会に説明した日本大会の概要については, すみやかに国内体制を確立して, しかるべき承認を与えるよう段取りをととのえる(林野)。

(2) EXC. については, この調査とコース案にもとずき再検討する(林試)。

(3) シンボルテーマについては, さきの調査課題を含め行政, 産業分野を入れて再調査を行うこととする(林試)。

(4) 日本大会協議会, 協力会については林野懇幹事会等と協議を進め現実性の高い方法をとりたい(林野)。

(5) 日本企業財団のフェロシップの利用業について調査を進める。

以上のような事柄が申し合わされた。

★IUFRO DIV. (森林環境と造林) の会合

1978年9月3日～9日 英国スコットランド, エディンバラで開催されることが SI. 02～00(立地)の研究部門リーダーである松井氏あて通知があった。

討議内容は天然資源, 生物資源, 人工林の育成問題, 森林の設計等で会議参加費は120ポンドである。案内状のコピーはメンバー機関の幹事に送付してある。

詳細と予約については次に問合せ願いたい。

Dr. E. D. Ford

Institute of Terrestrial Ecology

Bush Estate

Penicuik

Midlothian EH26 0QB

Scotland

★IUFRO プロジェクトグループ 2.02 (早成樹種植栽林の生産性) の会合

プロジェクトグループ 2.02 と 4.02 (間伐の経済学と機械化) とは, 1978年10月1日～12日に南アフリ

カ東部において, 「早成樹種短伐期植栽林の生産性について, とくにアフリカ, サハラ南部における植栽林について」共同会議を開催する。

議題は:

樹種の選定, 植栽林の仕立て, 間伐と枝打ち,

撫育, 森林保護, 伐木運材, 材質

会議後5日間の視察旅行を行う。

参加希望者は3月1日ころまでに下記に申込みねがいたい。

Mr. A. Van Laar

Faculty of Forestry

University of Stellenbosch

STELLENBOSCH

7600 SOUTH AFRICA

★1978年中における日本大会関係処理事項(予定)

53. 1. 11 カナダ理事会, EXC. 大会受入組織設立の現状

組織委員会事務局

53. 1. 12 EXC. とりまとめの報告

IUFRO-林試

53. 2. 中, IUFRO-J News (No. 4 発行)

林試事務局

53. 4. 上, IUFRO-J 会議(カウンターパートの決定, 募金方法等)

53. 4. 中 EXC. コースの検討

IUFRO-林試

53. 4. 下 EXC. 専門委員の発足

林試, 林野庁, IUFRO-J, 府県, その他

53. 5. 上～9. 上, シンボルテーマの再募集と選定事務局組織委員会

53. 6 IUFRO-J News (No. 5) 発行

53. 8～11 サーキュレーション協議, 印刷, 発送, 配布

53. 8 日本大会協議会の設立

53. 秋 第3回理事会(イラン)

佐藤, 松井理事出席

53. 11 IUFRO-J News (No. 6) 発行

53. 1～12 日本企業フェロシップ調査

事務局

募金財団(協力会)の設立

IUFRO-J NEWS No. 4

昭和53年2月

編集発行 農林省林業試験場調査部

TEL 03-711-5171